

群 教 セ	G02 - 02
	令5.284集
	社会 - 小

# 歴史学習において「知りたい」「学びたい」と意欲的に学ぶ児童の育成

— ICTを活用した「学習内容の整理」と

「次の時代の予想」を通して—

特別研修員 塚越 佑

## I 研究テーマ設定の理由

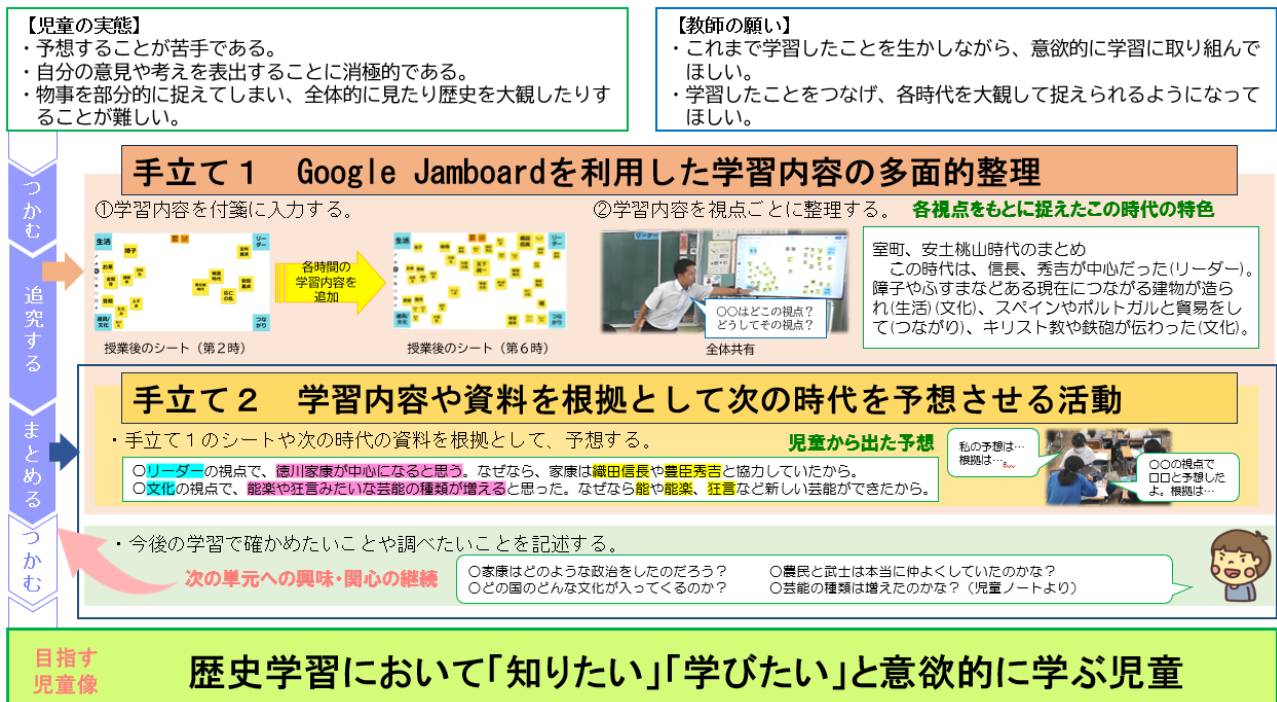
中央教育審議会答申（2016年12月）において、「学ぶことに興味や関心を持ち、（中略）自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか」という視点で授業改善を行うことが示されている。さらに「第2期群馬県教育大綱（2021年3月）」の基本方針では、「自分の頭で考え、生き抜く力を持ち、他人が目指さない領域で動き出す「始動人」を育成」とある。学習したことを生かして次につなげ（未来を考え）、自ら学ぶ（動き出す）ことの重要性が求められている。

研究協力校の児童は、ゲームや漫画の影響で一部の歴史に対して深く興味をもっている児童がいる。しかし、社会科は「暗記科目」「何のために勉強するのか分からない」と興味をもてない児童もいる。また、授業を一単位時間で課題解決するものと捉え、単元を全体で捉えたり、時代を大観したりすることが難しい児童もいる。このような児童が、学習したことを記録していき、単元全体の学習内容を活用して次の時代を予想することを自らできるようになると、学習意欲が更に高まると考えた。

そこで、Google Jamboardに、毎時間、学習内容を単語で入力し、視点ごとにまとめる活動を行う。それらを根拠にして次の時代がどう変化するか予想し、予想が合っていたか追究していくことで、「知りたい」「学びたい」と意欲的に学ぶ児童を育成できると考え、上記のとおり研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

「知りたい」「学びたい」と意欲的に学ぶ児童を育成するために、二つの手立ての実践を試みた。

**手立て1 Google Jamboardを利用した学習内容の多面的整理**

**手立て2 学習内容や資料を根拠として次の時代を予想させる活動**

手立て1は、Google Jamboardを活用して、学習内容を多面的に整理する活動である。

単元を理解するために、一単位につき一枚のGoogle Jamboardのシートを用意し、そこへ学習内容を短い言葉で付箋に入力していく。時代は橙色、視点は水色、学習内容は黄色、予想は桃色、と付箋の色を統一し、四つの視点もそれぞれのシートの四隅に固定して置くことで、共有する際に視覚的に捉えやすくした。このように工夫したシートを毎時間活用することで、学習内容を何度も確認したり、いつでも振り返ったりすることができるため、基本的な知識の定着に効果的である。さらに学習内容をどの視点に適した内容か考えて整理することで、学習内容や歴史的事象を多面的に捉えることができる。

手立て2は、学習内容や資料を根拠として、次の時代を予想させる活動である。

手立て1のシートや次の時代(単元)の資料を根拠として、次の時代(単元)がどうなるかを予想する。根拠を明確にして予想することで、飛躍しすぎることなく適切に予想することができる。各自が考えた予想をペアで意見交流させたり、全体交流の場で教師が児童の予想を取り上げ「なぜこの予想をしたか分かるか」を全体に質問したりすることで、児童の考えを広げることができるとともに、複数の視点に関連させて予想できるようになる。「単元のまとめ」で次の時代を予想する活動を取り入れることで、次の単元への興味・関心を継続させたり、学習意欲を高めたりすることができるため効果的である。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1より、Google Jamboardに学習内容を短い言葉で入力することで、児童は学習したことを適時振り返ることができるため、知識の定着に効果的だった。また、Google Jamboardの付箋の「色の分け方」や「置く位置」、「入力内容」を指定して活動したことで、児童が活動に素早く取り掛かれたり、共有時に見やすくなったりする効果が見られた。
- 手立て1より、四つの視点「生活」「リーダー」「道具/文化」「つながり」を継続して用いて学習内容を整理したことで、時代を捉えるための重要な歴史的事象に気付くことができ、それらを基にまとめを行ったことは、学習した時代を大観する上で効果的だった。
- 手立て2より、学習内容を根拠としたことで、根拠が明確になったため、「石から鉄を使うようになる」「物を交換する交易から金銭を使う交易に変わった」と時代の進歩を適切に考えた予想が多く見られた。
- 手立て2より、次の時代を予想させたことで、次単元への学習意欲を高められたと同時に、「予想したことと合っていた」「予想と外れていたけど楽しく学べた」など、同単元の学習に意欲的に取り組む姿が見られた。

### 2 課題

- 児童の予想を確認する活動で、教師がファシリテーターとなり、様々な予想を引き出し板書したが、共有のシートを準備し、そこに児童が直接入力したものを表示したり、グループで意見交換させたものを提示したりすることで、見やすくすると同時に、時間短縮もできたと考える。
- 本研究では、単元の「まとめる」過程で「次の時代を予想する」活動を取り入れたが、単元の「つかむ」過程でも位置付けることができる。単元と単元の間をつなぐ意識した単元構想を考える必要がある。

## 実践例

### 1 単元名 「戦国の世から天下統一へ」（第6学年・2学期）

#### 2 本単元について

本単元では、我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養うことを目的としている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表などの資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにする。(知識及び技能) (2) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表などで調べ、戦国の世の統一を果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現ことができるようにする。(思考力、判断力、表現力) (3) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 知識・技能 ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。 (2) 思考・判断・表現 ① 世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見出し、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。 ② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一を果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ① キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・資料から、戦国大名がどのような戦い方をしているか読み取る。
追究する	第2時	・日本と外国の関わりについて調べたり、資料を読み取ったりする。
	第3時	・織田信長が天下統一のために行ったことを調べる。
	第4時	・豊臣秀吉が天下統一のために行ったことを調べたり、天下統一後に行ったことについてまとめたりする。
まとめる	第5時	・学習内容を振り返り、予想したことが正しかったか検証する。
	第6時	・既習事項と資料を基に、次の時代がどのような時代になるのか予想する。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第6時に当たる。これまでの学習で、Google Jamboardを利用して、学習内容を付箋に入力し、視点ごとに整理してきた。本時では、学習内容や次の時代の資料を根拠として、次の時代を予想する活動を行う。そして、次の時代について「知りたい」「学びたい」と学習意欲を高められるようにする。そのために手立てを以下のように具体化した。

##### 手立て1 Google Jamboardを利用した学習内容の多面的整理

児童一人一人に、本単元用のGoogle Jamboardのシートを用意し、そこへ学習内容を短い言葉で黄色の付箋に入力させる。視点は「生活」「リーダー」「道具/文化」「つながり」の四つを既習の単元から継続して使い、水色の付箋でシートの四隅に配置する。これにより共有する際に

視覚的に捉えやすくする。このシートを「追究する」過程において毎時間活用することで、学習内容を何度も確認したり、いつでも振り返ったりすることができるようにする。さらに学習内容をどの視点に適した内容か考えて整理させ、歴史的事象を多面的に捉えられるようにする。

## 手立て2 学習内容や資料を根拠として、次の時代を予想させる活動

「まとめる」過程において、Google Jamboardに入力した学習内容や、次の時代（単元）に関する資料を根拠として、次の時代がどうなるか予想する。予想は視点ごとに、または複数の視点に関連させて考え、桃色の付箋で入力させる。各自が考えた予想をペアで意見交流させたり、全体交流で、ある児童の予想を取り上げ、それを深く掘り下げる質問を全体に対して投げ掛けたりすることで、児童の考えを広げるとともに、複数の視点に関連させて予想できるようにする。単元のまとめである本時でこの活動を取り入れることで、次の単元への興味・関心を継続させ、学習意欲を高められるようにする。

## 4 授業の実際

### (1) Google Jamboardを利用した学習内容の多面的整理

第1時～第4時まで、本単元用のGoogle Jamboardのシートに学習内容を短い言葉で黄色の付箋に入力する活動を行い、学習内容をどの視点に適した内容か考えて整理した。視点ごとに整理したことで、学習内容や歴史的事象を多面的に捉えることができた。さらに、「兵農分離」や「南蛮貿易」などの学習内容について、「これはどの視点か」を問うことで、「リーダーや生活」「つながりや文化、リーダー」など、複数の視点に関係していることを考えられた児童が多くいた。様々な歴史的事象がどの視点に適しているかを考え、付箋の配置を工夫する様子も見られた（図1）。また、第5時では、視点ごとに整理してきた学習内容に関連させたり、総合させたりしながら、戦国時代を大観したまとめを記述している児童も見られた。



図1 「Google Jamboardを利用した学習内容の多面的整理」を行った児童のシート

### (2) 学習内容や資料を根拠として、次の時代を予想させる活動

本時では、「追究する」過程でGoogle Jamboardに入力した学習内容や、次の時代（単元）に関する資料を根拠として、次の時代がどうなるか予想する活動を行った。予想は視点ごとに、または複数の視点に関連させて考えさせ、桃色の付箋で入力させた。その際、学習内容や「次の時代の資料」を根拠とした。本単元では「熙代勝覧」「長崎港図」「三人の天下統一への歩み」の三つの資料を提示し、児童と一緒に読み取りを行った。それらを根拠としたことで、根拠が明確になり、時代の変化を適切に考えた予想が多く見られた。

予想を全体で共有する前に各自が考えた予想をペアで意見交流させた（図2）。全体交流では、「どの視点」について「どのような予想」をして、「何を根拠にしたか」を伝えるよう確認した。児童からは、「リーダーの視点で、徳川家康が力をもつと思う。理由は、織田信長や豊臣秀吉と協力していたから。」「生活の視点で、武士と農民は仲よくなったと思う。なぜなら、資料から町を楽しそうに歩いている様子が分かるから。」といった根拠を明確にした予想が出てきた。



図2 ペアでの意見交流

また、「南蛮貿易」や「鉄砲」などの学習内容を基に「外国との貿易が増え、新しい物が日本に入ってくる」という「つながり」と「道具/文化」の二つの視点を関連させた予想も見られた。さらに、ある児童の「外国と貿易をする」という予想を取り上げ、それを深く掘り下げる質問を全体に対してすることで、「今まで織田信長や豊臣秀吉がポルトガルやスペインと貿易をしたから」「資料でオランダと貿易していることが読み取れるから」という答えを引き出し、児童の考えを広げることができた。全体的に「つながり」や「リーダー」の視点における予想が多かったため、他の視点の予想が出てくるよう、随時声掛けを行った。児童のGoogle Jamboardでは、「道具/文化」の視点で「能楽や狂言みたいな芸能の種類が増える」という予想が見られた(図3)。

本時のまとめでは、全体共有を生かして、各自で「次の時代の予想」を文章でまとめ、さらに、今後の学習で調べたいことや確かめたいことを記述する活動を行った。「家康はどのような政治をしたのだろうか。」「農民と武士は本当に仲良くしていたのか調べたい。」といった記述が見られた。単元のまとめである本時でこの活動を取り入れることで、次の単元への興味・関心を継続させ、学習意欲を高められた(図4)。

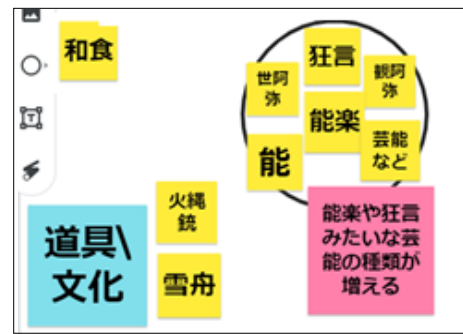


図3 Google Jamboardに書かれた予想

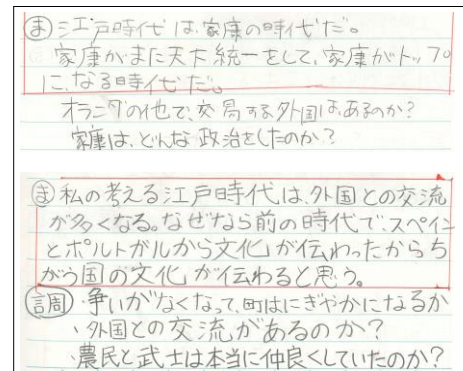


図4 学習意欲を高められた児童のノート

## 5 考察

これまで、社会科は「暗記科目」「何のために勉強するのか分からない」と興味をもてず、授業を各時間のつながりがないものと捉え、時代を大観することが難しい児童が多くいた。今回、手立て1としてGoogle Jamboardに学習内容を入力させたことで、児童はこれまで学習したことを適時振り返ることができるようになった。一つのシートに毎時間の学習内容が蓄積されていくため、各時間のつながりを捉えやすくなった。また、四つの視点を継続して用い学習内容を整理したことで、時代を捉えるための重要な歴史的事象に気付くことができた。さらに、それらを関連させたり総合させたりしながら時代の特色を考えさせることで、学習した時代を大観できる児童が増えた。よって本研究の手立て「Google Jamboardを利用した学習内容の多面的整理」は有効的だったと考える。

また、これまでは予想することが苦手な児童や自分の考えを表出することに消極的な児童が多くいた。しかし、根拠を明確にして次の時代を予想させたことや、Google Jamboardを活用したことで、自分の考えを表出できる児童が多くなった。さらに、次単元への学習意欲を高められたと同時に、同単元の学習に意欲的に取り組む姿が見られた。よって本研究の手立て「学習内容や資料を根拠として、次の時代を予想させる活動」は有効的だったと考える。

授業時間を有効に使うことや表現の仕方には課題が見られた。予想を確認する活動で共有のシートを準備し、児童が入力したものを表示したり、グループで意見交換したものを提示したりすることで、共有しやすくなると思った。今回、「次の時代を予想する」活動は単元の「まとめる」過程で取り入れたが、「つかむ」過程に位置付けることもできる。単元同士のつながりを意識し、単元構想を練る必要がある。

本研究を通して、「次の時代が予想したとおりになるか確かめたい。」「もっと知りたい。」「授業が楽しみだ。」といった意欲的な発言が多く聞こえ、次の単元への学習意欲を高めている姿が見られた。今後も学習したことを根拠に、次の単元や学習内容について予想し、その予想が合っているのか「知りたい」「学びたい」と意欲的に学べる授業を行いたい。

## 6 資料

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

Google Jamboardは、Google LLCの商標又は登録商標です。

なお、本文中には、<sup>TM</sup>マーク、<sup>®</sup>マークは明記していません。